

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 巧文



■ 被災地に職員を派遣しています

「みなさん、これまで経験したことのない大雨が降る恐れがあります。至急、自分の命を守る行動を取ってください。」これまでに聞いたこともない不気味な天気予報がテレビから流れている。7月28日に県北部を襲った豪雨災害の時のことです。みなさんもただならぬ状況を察したことと思います。

被災地の状況は大変深刻で、本市も萩市と山口市の両市に早速、7月31日には給水車1台と水道局職員2名を、次いで8月1・2日と、環境課等の職員を5名ずつ、5日から9日にかけては応援隊約100名を派遣したほか、ごみ収集のためのパッカー車1台と職員3名ずつを、また避難所や保健衛生の支援に保健師4名、阿東のボランティアセンターなどへ看護師6名を派遣しました。まだ、続きそうです。

気象庁の天気予報では、梅雨が明けたとはいえ、どこも、いつ局地的な集中豪雨に襲われるかもしれない、そうした不安定な状態が続いているとのこと。

3年前の厚狭川の水害を思い出しでは、何となく落ち着かない日々を過ごしています。

■ 「コンパクトなまちづくり(コンパクトシティ)」について

県の公募に応じて、山陽小野田市も厚狭駅南部地区を対象とした「コンパクトなまちづくり

モデル事業」のモデル地区に指定されました。

最近、県の作成した「やまぐち産業戦略推進計画」でも、「他都市のモデルとなるようなコンパクトなまちづくりの実現」が県の施策の一つと位置づけられ、「地域コミュニティの形成(子育て世代・高齢者等、様々な世代の交流)」など三つのコンセプトを持つモデル地区をつくること新規事業の一つとされています。そのモデル地区に選ばれたことはうれしいことです。

まず、8月26日の13時15分から文化会館で、国土交通省都市局長の講演「国土交通省におけるコンパクトシティの取組について」が予定されています。この講演は、コンパクトなまちづくりについての「普及啓発活動の推進」の第1弾と位置づけられていますので、一人でも多くの地元関係者の出席をお待ちしています。申込先は、県の土木建築部住宅課ですが、どうぞ本市の都市計画課(☎82-1163)もご利用ください。

厚狭駅南部地区のイメージ図

